
今を春べと咲くや木の花

千

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今を春べと咲くや木の花

【Nコード】

N0443Z

【作者名】

千

【あらすじ】

さあさ、皆さんご覧下さい。

五七五七七の歌の音色は、物語の幕開けの調べ。
きつと楽しい一時になるでしょう。

序章

人は長いようで短く、短いようで長い一生をすごし、そして死ぬ。それは変えようのない事実で、覆すことのできない絶対の真理。

では、死後の世界とはどんなものだろうか。

天国はあるのか、地獄はあるのか。

それとも死とは魂の消滅なのだろうか。

神は存在するのか。

誰も知らない。

なぜなら、三途の川を渡って、戻ってきたものはいないから。

それは私も同じ。

しかし、ただ1つ、私がわかっていることがあるとすれば、どうやら私は普通ではないらしいということ。

私は、今こうして思考しているのだから、生きてるのだと思う。

……………そう思いたい。

うまい言葉が見つからないが、簡単に言えば、私は生きている幽霊なのだ。

人の世では未練を残すと幽霊になるという。

これも本当かどうかは私にはわからない。

何せ長い時を生きてきたが、幽霊など見たことがない。

だが、もしいたとしても、私とは違う存在だろう。

私は死んで幽霊になったのではなく、生まれながら幽霊だったのだ。
誰も私を認識できず、触れない。
そこにいるのに、一人としてそれに気づかない。
それが、私だ。

役割は世界の傍観。
誰に命じられたわけでもないのに、疑問に思うこともなく、仕事をこなしている。
それ以外にすることもないのだが。

ああ、また歌が聞こえる。
五七五七七の調べ。
仕事の合図。

神とやらがいるのなら尋ねてみたいものだ。
私に、生きるものの運命である死はいつくるのかと。
何のためにこんなことをさせているのかと。

序章（後書き）

彼女は幾千幾万の時を過ごしてきた、ある意味神様のような存在。ただ、何故自分が存在しているのか、どうして傍観することしかできないのか謎は多く、彼女自身ほとんど把握できていない。言ってみれば、世界のシステムの1つ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0443z/>

今を春べと咲くや木の花

2011年12月1日20時47分発行